



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/13 (月)				成人の日			
1/14 (火)	+ 2,600	▲ 9,800	▲ 7,200	国庫短期証券償還 (3M)	共通担保 ▲ 20,000 CP等買入 ▲ 100 国債補完供給 + 5,600		日：貿易収支 (11月) 経常収支 (11月) 氷見野日銀審議員の講演
1/15 (水)	+ 3,000	▲ 34,000	▲ 31,000	国債発行 (5年・個人) 国債償還 (個人) 源泉税揚げ			米：CPI (12月) 米地区連銀経済報告 (ページブック)
1/16 (木)	+ 3,000	+ 5,000	+ 8,000		共通担保 ▲ 20,000		
1/17 (金)	+ 2,000	▲ 8,000	▲ 6,000	国債発行 (20年)			欧：ユーロ圏CPI (12月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆8,700億円減少の529兆6,500億円から始まった。その後、共通担保オペのエンドや税揚げ、国債発行等の要因により減少し、10日は524兆0,400億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.227%~0.40%のレンジ、1M~3M物0.30%~0.50%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、15日に貿易収支 (11月) と経常収支 (11月) の公表。海外では15日に米国CPI (12月) の公表、17日にユーロ圏CPI (12月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.220 ~ 0.228
1M	0.30 ~ 0.45
2M	0.35 ~ 0.55
3M	0.40 ~ 0.60
6M	0.50 ~ 0.65

<レポ>

足許GCは週を通して+0.24%~+0.25%の狭いレンジで推移した。輪番オペがオフアされた8日も水準に変化は見られなかった。SC取引は2年460~467回債、5年149~174回債、10年355~371回債、20年140~160回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆920億円で、週間償還額の1兆4,000億円を上回った。発行残高は昨年末時点の2兆2,869億円から、1月9日時点で2兆7,849億円に増加した。発行市場は、鉄鋼、卸売業、鉱業、建設業、電気業、小売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.20%台後半から0.50%台後半の出合いとなった。

来週の償還額は、1兆500億円となっている。発行市場は、今週同様、期明けの調達再開でCPの利用が想定され、相応の発行が見込まれる。発行レートは、金融政策変更を警戒し、1M物は0.3%台から、3M物は0.5%台とレートの上昇余地を探る展開になるだろう。

<TDB>

7日の3M (1278回債) の入札は、最高落札利回り0.2462% (前回債0.1453%)、平均落札利回り0.2178% (前回債0.1255%) となった。

9日の6M (1279回債) の入札は、最高落札利回り0.3717% (前回債0.3073%)、平均落札利回り0.3535% (前回債0.2952%) となった。

10日の3M (1280回債) の入札は、最高落札利回り0.2516% (前回債0.2462%)、平均落札利回り0.2402% (前回債0.2178%) となった。

来週の入札は16日に1Y、17日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。